

豊洲問題とは何なのか

朝日新聞科学コーディネーター 高橋真理子

最初から政治 이슈だった

- 1988年、築地で再整備計画を決め、91年に着工
- 工事費用が膨大になると96年に整備縮小案を示す→それなら移転の方がいいという声が市場関係者から出る
- 1998年、市場の業界6団体は賛否が分かれたまま、移転の可能性の調査を都に要望。豊洲が候補地に挙がる
- 1999年、石原慎太郎氏が都知事就任
- 2001年1月、豊洲の移転予定地で環境基準値の1500倍のベンゼンなど6種類の有害物質の基準値越えが公表される
- 同年12月、石原都知事が豊洲への移転計画決定。築地を視察した石原知事は「古い、汚い、危ない」と発言。

2007年の都知事選

- 立候補した浅野史郎・前宮城県知事、建築家の黒川紀章氏、前足立区長の吉田万三氏、発明家のドクター・中松氏がいずれも移転反対を表明
- 石原氏は弁明に追われ、豊洲の土壌の安全性について専門家の意見を聴く方針を示した
- ↓
- 得票率51%で石原氏圧勝

2009年7月の都議選で民主党圧勝

- 政権交代が焦点となる衆議院選挙の前哨戦として注目され、投票率は歴代2位に
- 都議会自民党は48議席→38議席
- 都議会民主党は34議席→54議席。
- 都議会第一党となった民主党は「強引な移転に反対」と石原都知事をゆさぶる

2009年9月、民主党政権が誕生

- 2009年8月の衆議院議員選挙で民主党圧勝、9月に鳩山内閣発足
- 赤松農水相が「安全を確認しない限り、認可することはない」
- 移転容認派の声「20年かけて決まった方針を政争の具にしないで欲しい」
- 反対派の声「移転ありきから前進した」

一方で、都の対応に次々と不備

- 専門家会議が2008年に全体の土壌入れ替えを求める
- 2009年1月、都の情報隠しが発覚。専門家会議に報告せず、会議終了4カ月後にメールで報告。
- 2009年2月、都が汚染除去計画を発表
- 盛り土の汚染調査が不十分など、問題点が指摘されるたびに取り繕うような対応
- 移転を支持する都議会自民党さえ「情報をすべて出して説明を尽くしておけば、移転議論は早く進められた」と苦言
- 専門家会議座長を務めた平田健正・和歌山大理事は「計画に疑問を持つ人と信頼関係を築くには公開協議の場などで全データを示し、さまざまな意見をくみ上げることが大切だ」

その後の流れ

- 2012年夏、民主党が下野
- 2013年度予算では都議会民主党も移転容認
- 2014年2月、豊洲新市場の起工式
- 舛添都知事は「十分安全」と安全宣言
- 2014年12月、新市場の開場を16年11月と決定

- 2016年7月31日、「都政の透明化」を公約に掲げた小池百合子氏が都知事に当選
- 2016年8月、小池都知事が豊洲移転延期を発表
- 理由の第一に「安全性への懸念」をあげる

都の自己検証報告書

- 2016年9月30日発表
- わかったこと:意志決定過程の不備や連携不足、ガバナンスの欠如
- わからないこと:豊洲は安全なのか？
 - 築地と比較してどうなのか？
 - 検討に期限を区切らないことの是非

置き去りにされた根本問題

- これからの中央卸売市場のあるべき姿とは
- 日本の漁業をどうしたいのか